

令和5年度（2023年度） 第4回函館市観光基本計画策定検討委員会 議事録	
開催日時	令和5年（2023年）8月30日（水）14:00～
開催場所	函館市役所 本庁舎8階 第1会議室
出席委員	奥平委員長，古地委員，中島委員，西村委員，渡部委員，櫻坂委員， 織田委員，土田委員
欠席委員	奥野委員，飯野委員，一戸委員
事務局	観光部長，観光部次長，観光企画課長，観光誘致課長，観光振興課長， 国際観光課長，企画担当主査，企画担当主任主事
(株)北海道 二十一世紀 総合研究所	布川主任研究員，小俣研究員
議題	(1) 基本方針について (2) 目標値について

## ■ 議事概要

会議開催に先立ち，事務局より今回の議題について資料1に沿って説明。

次に，事務局より資料2～3に基づき，前回までの会議で決定した「5年後の函館観光が目指すべき姿」と「基本理念」，「基本方針」の3つ目までの案について説明を行い，委員へ確認を行った。

基本理念に関し，委員より以下のとおり意見があったため，当該記述については「観光事業者を始めとして，市内の事業者，市民の皆様にも」と修正すべきとされた。

- 資料3の2ページ2行目に「観光事業者の皆様にも」という記述があるが，観光事業者に限らず，関連事業者，市内の事業者などもう少し広めな表現にした方が良い。
- さらに拡大し，市民についても加えるべきだ。

### 1. 基本方針について

(株)北海道二十一世紀総合研究所より，4つ目の基本方針(案)について，資料4に沿って説明。

方針4に掲げた案は目標値の数値化が困難であることから，方針4は基本方針としては削除し，当該方針の趣旨については方針1～3に盛り込むことが事務局より提案された。そのため，方針4の計画掲載の是非と掲載する場合には目標値をどうするのかということを論点として，委員による議論がなされた。

方針4については，基本方針として残すべきとされ，計画上の表現は，今回の議論を踏まえて事

務局で再検討することとなった。また、方針4に関する目標値については、産業連関表ではない代替案について、再度の検討が求められた。基本方針に関する委員の主な意見は以下のとおり。

- 方針4の目標数値を出すのは難しいと思うが、方針4を方針1と3に盛り込むというのは、前回の会議で新たに設けるべきとしたものなので、どうかと思う。
- 観光が経済効果を高めて函館が豊かになれば良いという思いがあったが、目標値の設定が難しいということは理解した。2枚目の施策展開イメージを見てみると、方針1から項目が四つ、2は二つ、3は一つと減っていつているので、盛り込んでもよいのではないかと思う。
- 方針4は、方針1と同じような感じを受け、違いが分からないと思ったため、方針1と3に振り分けても良いのではないか。
- あえて残した方が良いと思う。前回の会議の中で、方針4を新たに作る理由を議論したが、今回の計画を作る目的は何なのかといった時に、これまでの函館における観光施策を見たときに、観光事業者以外を巻き込んでいるかというのが大きな問いとしてあった。産業連関表が使えないからと言って諦めるのはもったいない。観光事業者以外を巻き込みたいという思いがあるのであれば、その人たちに明確に届く道具を作らなければならないと思う。恐らく方針4を1から3に混ぜ込むと、観光事業者以外は関係ないと思われるかもしれない。観光がどのように基幹産業になるのかというのを広く示さないと、「価値を高める観光で函館を照らす」と基本理念で定めた意味が薄まっていつてしまう。
- 方針1～3が具体的であるのに比べ、方針4の言葉は明確に伝わりづらい。施策展開のイメージを見ると、その内容は地産地消などと具体的に書いてあり分かりやすい。ニュアンスや言葉を変えて、経済効果を生むために何をしなきゃダメなのかと言うのは残しても良いのではないか。ただ「函館市民に重要性を認識してもらおう取組」というのは方針3に近い部分もあるので、議論のキーワードも使いながら明確に分けていくことが必要。
- 方針4は残した方が良い。4があることによって、一般市民を巻き込める。3に近いという意見があったが、3は市民の中でも戦力になる世代、人々が入っている。4だと経済効果によって皆が豊かになるというところで、広く市民を巻き込めると思った。戦力にはなれないが函館を好きで見守っていきたいという人たちを取り込むためにも、4を残した方が良いのではないか。
- 現状の基本方針では、他産業との繋がりが見えてこない。連関表以外で見えるような形にした方が良い。観光というものは函館の地域経済のエコシステムの中でどういう位置を果たすのかというのが議論されてきたと思う。これだと、他の事業者や市民が自分のやることによって何がどうなるのかというのが見えにくい。日本人は連関表を好んで使うが、諸外国も含めDMOなどで他に他産業との繋がりを示す手法はないのだろうか。  
→ (21 総研) 私たちはこういったケースは連関表を使っている。もう少し簡易に見えるものということであれば、持ち帰って調べさせていただきたい。
- 前回の会議で、観光業と他産業の繋がりを見せたいという話があった。人口減少分を観光消費で補えば良いといった時に、自分事で捉えられる他の事業者がどれくらいいるのか。ちょっとイメージしにくいと思う。もちろん、観光業だけで取り組むというのも一つの選択肢であり、数字が出せないで断念するというのもひとつの決断。周囲を巻き込むという目的をどれだけ大事にするのか。

- 前回会議の意見から、観光業の収入増加がその他函館市の発展・函館市民の豊かさに繋がるという点を方針として独立させて欲しい。他産業にどう影響を及ぼしているかというのは、把握しづらいと思うが、市民の一人一人が、観光があるからこそ生活が成り立っているという姿を基本方針、基本計画で打ち出さなければ、前の計画と変わらないのではないかな。
- 目標値の設定がなくても、皆が頑張れる何かが見えれば良いのではないかな。表現の仕方次第。
- 現状の表現だと、経済に引っ張られている。必ずしも経済だけではない。経済に引っ張られない形で何か良い言葉がないかな。人手不足、雇用の部分もどこかに入れられないかな。
- 方針4は、他産業と市民というところを強調した方が良い。
- 「波及させる」という言葉に変えた方が良い。1より広げるということにしないと方針4をたてる意味がない。
- 観光の宝をみんなで受け取るような、果実、実をみんなで分けるといような表現が欲しい。
- 今の方針4は1～3をまとめているような印象を受ける。波及効果という言葉は難しい。1～3のように分かりやすく、かつ難しくないように伝えられたら良い。
- 難しい表現を方針に書くのであれば、方針の説明を具体的に書き簡単にする。
- 波及効果という言葉が難しいのであれば「観光を通じて市民生活を豊かにする」という表現はどうか。抽象的な表現のため、「豊かに」とはどういうことか、経済的な面とシビックプライド的な面の両面から整理していく。
- 観光の経済波及効果について、もう少しみ砕いて表現する必要がある。図解で書けばいいのではないかな。波及効果という言葉を残して図解にする。
- 市民の方には波及効果を理解してもらわないと、「なぜ市民が観光に携わらなければならないのか」という問いに答えられない。観光事業者がやれば良いのではと言われたときに違うと説明出来る材料が欲しい、というのが今までの議論の大きなところ。
- 観光業で一人雇えば、その給料で地域にお金が落ちる。地域経済に繋がる。そのために観光業に携わっている人が元気にならなきゃだめですよ。
- 「観光成果の共有」という言葉はどうか。方針1～3で観光という言葉を使っているのだから、それを踏まえて。実際にどのように観光が盛り上がっていくのか市民にわかるように補足する。
- 例えば、函館来ます、バス乗ります、バスはガソリン入れます。ご飯食べます、野菜や魚、お肉は地元から、観光はこうやって地域と関連してますということを図で示す。
- 観光客が一人来たらこんなに、みんなにお金が回りますよという図を作れば。
- 「波及効果」はぼやっとして、アクター（関連している人）が見えない。アクターを示して、成果などの分かりやすい言葉をいれて説明する。
- 「共有」という言葉が良いのではないかな。
- 「成果」という言葉はニュートラルだが、ずっと皆さんに落ちるかということ、ちょっと固い。「果実」はちょっと生々しい。政策の中につかう言葉にはどうなんだろう。事業者、市民両方に落ちていく言葉を使う必要がある。
- 観光の「恵み」という言葉はポジティブで良いのではないかな。広範囲を示している。
- 事業者側からみると、方針のお題目の部分は波及効果という言葉を使い、説明部分に観光の恵みなどの言葉を入れた方がわかりやすいと思う。
- 観光業の活性化が他産業に波及して、市民が豊かになるということをコンパクトに表現する。そのまま、矢印で繋げた方がわかりやすいのではないかな。

## 2. 目標値について

(株)北海道二十一世紀総合研究所より、目標値(案)について、資料5に沿って説明。その後、委員による意見交換を実施し、目標値については、提案のとおり了承された。

目標値についての、委員の主な意見は以下のとおり。

- 現在、1人当たりの消費額は、宿泊費、交通費、飲食費、お土産品費、その他の項目毎に平均消費額を算出しているということだが、そういった内訳が見えれば、事業者にとって関連が分かりやすくなり、誰が何をすれば良いか見やすくなるのではないか。
- 外国人日帰り客(クルーズ船の乗客など)の消費額の記載がないが、把握した方が良いのではないか。
- 消費額は他都市との比較も必要ではないか。カナダの事例では、ベンチマークシティというものを入れて、似たような地域と比べ当該地域のパフォーマンスを測っている。
- 観光消費額を目標値とする場合に、物価の上昇の影響についてはどう扱うのか。  
→(事務局)5年後の物価がどれくらい上がっているのかというのは推計するのが非常に難しい。物価上昇を加味する方法としては、毎年数値検証を行っていく中で、足元の物価がどれくらい上がっているのかを見ながら、適宜柔軟に物価がこれくらい上がったなら、観光消費総額の目標値もこれくらい上げるという形で修正していくのが、現実に即した落としどころと考える。
- 繁閑差の是正に関しては、繁忙期が4月～5月と7月～8月の2つあるため、繁閑差が大きいという函館の特徴を説明した方が良い。
- インバウンドを冬に誘客出来れば、繁閑差が小さくなる。
- 観光事業者として下期34万人増(パターン②)という目標は、上期と下期で考えれば多くはない。現状、上期に336万人に来訪があり、下期は200万人に達していない。下期34万人はキャパシティ的には問題ない。上期を増やそうとすると、人手不足の解消などの課題が発生する。
- 5年かけて下期で17万人増という一見少ないように感じる。インバウンドは余裕で月に3万人来そうな気がする。質の高いインバウンドということか。  
→(事務局)函館の下期の観光入込客数の過去最高は約200万人となっている。
- 提案の210万人くらいが良いかもしれない。あとは掛ける消費額。
- 繁閑差是正については、すぐにでも冬期間の入込を増やしていく必要があると強く言った方が良い。